

6月のまちの話題

「町制施行50周年記念町民植樹祭」開催

町民約80人が参加。森林を支え、環境と未来をひらく

宇隆の環境保全林で6月5日、町内各団体の関係者や一般参加の町民など約80人が町制50周年を記念した「町民植樹祭」に参加し植樹を行いました。ニトリ北海道応援基金の支援を受け、約0.2haにミズナラの苗木1240本を植樹。5月に先陣をきって鶴川漁協厚真支部の皆さんが400本を植えており、残りの840本はこの日の植樹祭のために用意されました。開会式で宮坂町長は「厚真の子どものために、この木に思いを込め森林という財産を残せれば。新しい未来を心に抱き、次の世代にバトンを渡したい」とあいさつ。河村議長も「町の面積の7割は森林である。厚真が発展してきたのも森林のおかげ。大きな原点に返って植樹してほしい」とあいさつ。来賓や一般参加者は、1人当たり約10本を雑草の根に苦戦しながらも穴を掘り苗木を植えて丁寧に土をかぶせていました。6月5日は、3年前に苫小牧で開かれた全国植樹祭の日。その時に天皇、皇后両陛下によりお手まきされたアオダモの苗木10本も植えられました。同地は植樹会参加者から後日名称を募る予定で、関係者は「町の貴重な財産として未来に残せば」と額に汗を浮かべ作業にあたりました。

心を込めて植樹をする参加者



記念植樹会終了後、参加者全員で記念撮影

あつままくらぶのもぎたて市がオープン!

「自信をもってお届けします」
新鮮野菜が30種ズラリ



あつままくらぶ5人と出店参加したタクーさん

農家の奥様方で構成するあつままくらぶ(石橋美穂子代表)のもぎたて市が6月10日、同会員の北島美保さん宅(表町)の倉庫でオープンしました。正午のオープン前から、この日を心待ちにしたお客さんで長蛇の列。今年で6回目の開催となるもぎたて市は、丹精込めてつくられた愛情たっぷりの野菜で、季節により品揃えは変わりますが常時30種類の新鮮野菜が直売され大好評です。代表の石橋さんは「多くの人が足を運んでくれた。私たちの野菜が求められていることに喜びを感じます」と笑顔。もぎたて市は、感謝セールを行う最終日10月14日までの毎週木曜日、正午から午後2時までの開店です。

今年も河川敷がお花畑に

今年で6回目となる厚真川左岸河川敷・親水公園でコスモス、ひまわりの種をまく作業が6月4日に行われました。花フレンズ会員を中心にボランティアで集まった町民、町職員23人がぐわで耕し、昨年秋に摘んだ種をそよ風に乘せてふりまきました。今年も8月ごろ、辺り一面花に彩られる河川敷に行き交う人たちの目を楽しませてくれるでしょう。



みつば保育園(富里・佐藤泰夫園長)の年長組4人が6月2日、佐藤園長の田んぼで、田植え体験を行いました。

この田植えは、同保育園で10月に行うもちつき行事のためにもち米の苗を植えたもの。

あいにくの小雨の中、佐藤園長に田植えの指導を受け、初めて体験した園児たちは泥んこになりながら「うまく歩けないよ〜、むずかしいよ〜」と笑顔をかほしながら、およそ20㎡の田んぼに一生懸命手植えをしていました。



「秋のもちつきが楽しみだね!!」



**ギネスボードお引越し
浜厚真の野原公園内に!**

昨年8月にスポーツ用品店・榎ムラサキスポーツから寄贈を受けたギネス記録認定9.2mのサーフボードが6月21日、サーフボードの名所である浜厚真の野原公園内に設置されました。サーフィンでまちおこしを展開する「あたらしいなみPT」が厚真の象徴になればと企画。高さ1.6mの台座に取り付けられたボードは、サーフボードのイメージ付けるものとなりそうです。



**市街地を花でいっぱい
官民共同で沿道を植栽**

厚真市街地環境整備の一環である道道千歳鶴川線沿道の花の植栽が6月2日、昨年に引き続き行われました。小雨がぼつぼつと降る中、花フレンズ会員、西町・南町自治会、町商工会、各事業所員、町職員など約60人が官民共同の作業にあたりました。町と各団体の協力により草刈りされた街路樹の下63区画に、サルビア、ペコニアなど1200株を植栽していました。

森本やいさん(本郷) 家族に囲まれ 満100歳のお祝い

明治43年6月29日に本郷で産声を上げた森本やいさん(本郷)が6月29日、満100歳を迎え宮坂町長が自宅を訪れ、祝い品を贈呈しました。やいさんは夫・定一さんと昭和5年に結婚し、6男2女の子どもを授かり、孫18人、ひ孫19人に恵まれました。72歳の時には、趣味の書道で百人一首を書きあげ、掛け軸を製作し周囲を驚かせる一幕も。

健康の秘訣は「子どもたちの成長をいつまでも見届けたいと思う心です」と笑顔。宮坂町長は「やいさんは町民のあこがれの的ですよ」とお祝いの言葉を贈っていました。



宮坂町長から祝い品を贈呈されるやいさん



やったね! 厚中バレー部 全員バレーで見事優勝

厚真中学校(濱口明雄校長)バレーボール部が6月12日、日高町総合町民センターで行われた第3回近隣町中学校バレーボール大会で見事優勝を飾りました。

大会には、中学生女子11チーム約130人が参加。今大会の勝因について監督の柳本先生は「相手のエースに仕事をさせず、粘り強くボールを拾うまく自分たちのペースに持ち込めた。7月に行われる全道大会をかけた4地区大会で優勝し、全道へのキップを必ずつかみとりたい」と力強く抱負を語っていました。

(右上) やいさんが書きあげた掛け軸

まちの話題 plus

もっともっと、きれいなビーチに。

道内屈指のサーフィンの名所で知られる浜厚真海岸で6月7日、アウトドア用品販売店パタゴニア札幌、サーファー、厚真高校の生徒、町職員など100人以上が海岸に漂着したごみや海岸に捨てられたごみ、約450kgを回収しました。

この清掃運動は「パタゴニア札幌」が地球のために行動する日（アースデイ）にちなんで、自然環境保全のため毎年行ってきたもの。昨年からは、臨海地域を起点に町の活性化を目指す役場若手職員のプロジェクトチーム「あたらしいなみ」が趣旨に賛同し町も共催で参画しています。

作業に先立ち古川副町長が「これは単なるごみ拾いではない。町の活性化にもつながっていく」と強調。参加者は4、5人のグループに分かれて、拾ったごみをチェックしながら海岸一帯を清掃しました。

中島巧さん（本郷）は「あたらしいなみのブログでこの運動を知りました。日ごろサーフィンで利用してる海岸なので、きれいになるのはうれしいですね。毎年参加したいです」と笑顔で話していました。



熱心に清掃作業を行う参加者

交通事故死ゼロ 1500日を達成!!

当町の交通事故死ゼロ1500日を迎え、このたび北海道知事より厚真町に対して感謝状が贈呈されました。

継続されている交通事故死ゼロの達成日1500日は、現在のところ道内において23番目の記録。交通安全に対する意識を高めることを目的に交通安全推進委員会では「セーフティーコール」をはじめ街頭指導を通年にわたって意欲的に取り組み、交通安全を呼び掛ける運動を行っています。町交通安全推進委員の浜崎さんは「次は2000日達成が目標。これからも事故防止の啓発に努めていきたい」と話していました。



感謝状を手に喜びを語る浜崎さん

「自然大好き」森林教室で樹木を観察

上厚真小学校（横山守校長）の4年生16人が6月25日、学校周辺の民有林で「森林教室」を体験しました。同小4年生は、総合的な学習で環境教育をテーマにコブシやカツラ、エゾヤマザクラなどの樹木を観察。

講師に訪れた胆振総合振興局森林室の方から、森林の働きや生態についての説明に、児童たちは真剣な表情で耳を傾けていました。

渋谷舞華さんは「木に聴診器をあててみると、ドクドクと心臓の音が聞こえたような気がしました。木のお医者さんになった気分でおもしろかったです」と子どもたちは笑顔で自然とふれあっていました。



興味深く樹木に聴診器をあてる子どもたち

町内12カ所で住民健診を実施

町が行っている住民健診が6月7日幌内マナビィハウスをかわきりに8日間、町内12カ所の会場で行われました。

今年の受診者数は昨年より100人ほど少ない約1,700人。

この健診は、自らの健康状態を確認し健康の保持増進、生活習慣病の早期発見・早期治療を目的とするものです。

健診業務に携わる宮本保健師は「年1回は必ず受診してほしいと思っています。これからも町民の皆さんが元気でいきいきと生活してもらうためにも」と願いを込め話していました。



保健師と健康相談をする受診者

「富野小から愛を込めてプランターを」

来年3月末に閉校を迎える富野小学校（山本他喜男校長）は6月7日、地域や各事業所に寄贈するため「みどりの活動」と称し学校敷地内にある農園で、花の楽しさや緑を大切にすることを学びながらプランター作りを行いました。全校児童7人でサルビア、マリーゴールドなど数種類の花々でプランターを製作する独自の取り組み。

この日、同小から役場に訪れた4人を代表して下河原沙希さん（5年生）は「みんなで一生懸命作りました。大切に飾ってください」と願いを込めプランターを手渡していました。



プランターを手渡す富野小学校の児童

着物を再利用。上小児童が手芸を体験

上厚真小学校（横山守校長）で6月18日、4年生から6年生の児童を対象に町内外から講師を招き、クラブ活動が行われました。

今年から初めて行われた手芸クラブでは、上厚真で着物リメイク工房を営む三上由美子さんが訪れ、着物地で「うさぎのストラップ」を製作。子どもたちは指導を受けながら、器用に針に糸を通し真剣な眼差しで縫い合わせていました。三上さんは「子どもたちに日本古くからある絹を、自分の手でふれて形にしていくことを学んでほしかった」と笑顔で話し、子どもたちと交流を深めていました。



ストラップ製作に没頭する上小児童と先生

子どもたちとおじいちゃんがいっしょに

子育て支援センターの敷地内にある畑に6月9日、同施設を利用している母子の皆さんが高齢者の方々と構成する「畑作ボランティア」の指導を受けながら、サツマイモやスイカ、トマトなどの苗をいっしょに植え交流を深めました。

この日は、飛谷富夫さん（本町）をはじめ6人の「畑作ボランティア」の方と職場体験学習の一環で来ていた厚高生2人も苗植えに協力。おじいちゃんたちと就学前の子どもたちは、たくさん野菜がとれることを願いながら、終始笑顔を絶やさず共同作業を進めていました。



飛谷さんの手ほどきで苗を植える子どもたち

胆振東部消防組合 消防職員資格試験のお知らせ

平成23年度胆振東部消防組合消防職員採用試験を行います。

- 採用職種 消防職員（深夜業務を含む交代制勤務）
- 採用予定日 平成23年4月1日
- 採用人員 若干名（救急救命士の有資格者または資格取得見込み者含む）

- 受験資格
 - ・高等学校卒業（短期大学卒、専門学校卒を含む）で、昭和60年4月2日以降に生まれた方で、採用予定日までに普通自動車運転免許を取得でき、勤務署所在地に居住可能な方。
 - ・その他（身長160cm以上、体重50kg以上、胸囲・身長との1以上、視力《矯正視力を含む》が両眼で1.0以上、色覚および聴覚が正常）身体強健な方。
- 試験方法 胆振町村会の共同試験

<第1次試験>

高校卒業の方は、教養試験、適性試験、作文試験

<第2次試験>

第1次試験合格者に対して面接試験を行います。

■試験日・会場および合格発表

<第1次試験>

- ・試験日 10月3日（日）
- ・試験会場 しらおい経済センター（JR白老駅前）（白老郡白老町大町2丁目3番4号 ☎0144-82-5692）
- ・合否発表 11月上旬（予定）に受験者本人へ通知します。

<第2次試験>

第1次試験合格者へ合否発表時に文書で通知します。

■受験手続き・受付期間

①提出書類等

- ・受験申込書
- 直接受け取る場合
胆振東部消防組合消防本部総務課
〒059-1604 勇払郡厚真町錦町47番地の2
☎0145-26-7100
（消防本部総務課で7月4日から交付します）
- 郵送を希望する場合
120円分の切手を貼った宛先明記の返信用封筒（角形2号：A4サイズ）を同封の上、上記住所まで郵送。

- ・履歴書（市販のA4版用紙に自筆で記入し、写真を貼付）
- ・写真1枚（受験票貼付用として、無帽の上半身、縦6センチ・横4.5センチで最近6カ月以内に撮影したもの）※写真は履歴書用とは別に必要です。
- ・学業成績証明書（最終学校のもの）
- ・卒業証明書（または卒業見込み証明書）
- ・自動車運転免許証および救急救命士免許証の写し（有資格者）
- ・受験票送付用封筒（長形3号：縦235ミリ×横120ミリに、80円切手を貼った宛先を明記したもの）

②受付期間

7月20日（火）から8月16日（月）までの期間（当日消印有効）午前8時45分から午後5時15分まで受付します。（土曜、日曜、は閉庁日のため受付できません）

■受け付け・問い合わせ先

- 胆振東部消防組合消防本部総務課
〒059-1604 勇払郡厚真町錦町47番地の2
☎0145-26-7100